

生きるために食べるべきで、食べるために生きてはならぬ。2400年前のソクラテスの言葉だが、果たして今のギリシア人は覚えていいるのだろうか？

暴動やストライキが頻発する現在のギリシャ、高級住宅街でさえごみが散乱し、とにかく食べるためにストライキや暴動を起こし社会混乱を増幅させ、結果、食べるのが難しくなる。

首都アテネでは、政府がドイツ企業と結んだ補修契約が切れ、信号機を直せず警察官が信号の代わりを務めている。医療現場

今日 つれづれ

では、政府が病院にきちんとお金を支払わない為、本来3割負担で買える薬を1割負担で買う。そして後から患者自身が政府

に請求するのだが、支払ってもらえるかはわからない。2004年のアテネオリンピックの時の工事代金がいまだに政府から支払



神戸 睦史
〈ハウゼサンエイ〉

ってもらえない。メーカーは、納期どおり製品を作っても港湾や税関でストが多く、納期の確約ができない。失業率は20%、若

年層は50%、富裕層は国外へ脱出し、代わりに貧しい外国人移民が入ってくる。

ギリシア人の多くは、その日の自分のことばかりで未来や他人の事を考えない。人生の目的と手段を混同して自分を見失っている人が多いのではないか？

”無知の知”を皮肉にも自分の国の人々が一番理解していない事に、ソクラテスは雲の上からなんと弁明するのだろうか？